

4-1 教育研究上の情報

4-1-14 海外の協定相手校

海外との関係においては、本学の系列校であるInternational Pacific Universityとの深い関係が本学の一つの特徴となつていいます。

その概要をご紹介します。

「インターナショナル・パシフィック大学」(通称:IPC) ニュージーランド

❖ 経 緯

環太平洋大学設置の背景には、平成 62(1987)年 8 月、ハワイ(ホノルル)に環太平洋地域各国の大学人や教育関係者が集い話合われた「International Pacific University 構想」があります。

これは、環太平洋圏の若者達に国際的な教育の機会を提供することを目的とし、環太平洋地域の大学で傑出した教育制度と技術、思想と知恵を組織的に凝縮した、国境を越えた大学教育ネットワークの重要性を、さらには、教育・スポーツ・ビジネス・文化などの領域を通してお互いを深く理解し合える若者の育成を基本理念として掲げたものです。

この大学教育のネットワーク化を推進する「IPU 構想」の先駆けとして、環太平洋大学で高い教育水準を誇り、教育・自然環境ともに恵まれたニュージーランドで 1990 年に設立したのが、インターナショナル・パシフィック大学(IPC)です。

これに次ぐ本学の開学により、「IPU 構想」はいよいよ第 2 ステージへと突入し、環太平洋地域における大学のさらなるネットワーク化により、各国大学間の教育研究に関する相互交流も促進され、大学における真の国際教育の実現をめざしていきます。

この理念を大学名称に込めて、環太平洋大学(International Pacific University)が誕生しました。その実現のため平成 19(2007)年 9 月 20 日、大学間協定書が正式に締結され、平成 22(2010)年 9 月 23 日に新たに包括的連携に関する協定も結ばれています。

❖ IPCへの研修

本学の学生が、IPC における授業や実習及びアクティビティー等を通じて、豊かな国際感覚と確かな英語力を修得し、国際的な視野とコミュニケーション能力を有する有能な人材育成に資すること。

平成 24(2012)年 4 月新設の「国際教育学科」はもちろん、スポーツ系の資格取得を目指すなど、学部学科を問わず、希望者全員に留学への扉は開かれています。国際教育学科の学生は、入学後 1 年間 IPC へ留学し活きた英語と、国際感覚を修得し、それ以外にも短期留学なども積極的に参加している。

習熟度別の少人数クラス編成となっている IPC ファウンデーション・エディケーション(基礎教育)にて英語能力を高めます。また、教室の授業だけでなく、世界各国から集まった学友との共同生活、地元コミュニティ内でのアクティビティーやボランティア活動、インターンシップ(企業研修)やホームステイなど、学生をとりまく生活環境すべてを使い、英語能力向上と「ホリスティック・ディベロップメント(全人的成長)」を目指します。

《IPC ホームページ》

<http://www.ipc-nz.ac.jp/>

❖ 提携内容

- ① 資格修得・単位交換が可能
IPC で修得した単位は、IPU(本学)の単位に互換可能なものもあります。また、DISS(国際スポーツディプロマ)は、短期留学でもコーティング・スポーツ英語など資格の一部を修得し、帰国後インターネットTVを通じて、引き続き受講することができます。
- ② 留学前の事前研修
日本のIPU(本学)キャンパスにいながらにして、インターネットTVでIPCとつながり、ミーティングや事前研修、オリエンテーションが可能。
留学前に感じる不安をクリアします。
- ③ 英語力を磨くためにIPCが開発した「ファウンデーション・プログラム」
IPCには英語を母国語としない地域の学生のために開発した、基礎英語を集中的に学ぶ「ファウンデーション・プログラム」があり、留学時の英語学習を力強くサポートします。
レベルに応じた少人数制で、ロールプレイなどの実践的な授業により、英語力の確実なスキルアップが可能です。
また、IPU留学生向けのプログラムも用意されます。
- ④ 万全のサポート体制
IPCキャンパスには、日本語の話せるスタッフが常駐。また、日本診療所も完備されており、フィジカルだけでなく、メンタル面のケアも行います。ここにも日本後の話せるスタッフが常駐。IPC・IPU両校には「バディ」と親しみを込めて呼ばれる留学生の世話役がいるため、交流は留学前からスタート。帰国後も親密な関係を保ち続けられます。

[平成29年5月1日現在]